



第 五 卷

特 別
チ 12
3656
14



次第三



二 始て標を信濃路やぐ二木骨八
 二 二急をたつ二是二木骨乃
 山家よわ出くる借少人ぬも
 木骨屋ハ江州あり流々屋よ
 討建路ひころう一及人頼よ
 流路を吊ひ中きりやと思ひ
 喉々あり流々りへと急ん

別計は利益よ^上少のをま^下し^一
くひ^一竹人^二くまも^三く^四出家乃^五
法方なき^六い^七悔乃人^八少なり^九り^{一〇}
孫ふ^{一一}倉^{一二}一^{一三}室^{一四}に^{一五}煙^{一六}も^{一七}も^{一八}如^{一九}流^{二〇}に^{二一}船^{二二}
舟待え^{二三}く^{二四}く^{二五}孫^{二六}り^{二七}み^{二八}書^{二九}あ^{三〇}く^{三一}は^{三二}
お^{三三}り^{三四}も^{三五}も^{三六}を^{三七}江^{三八}に^{三九}流^{四〇}乃^{四一}矢^{四二}橋^{四三}を^{四四}
わ^{四五}くる^{四六}舟^{四七}な^{四八}く^{四九}ハ^{五〇}く^{五一}孫^{五二}ハ^{五三}孫^{五四}人^{五五}の^{五六}

わた^一く^二舟^三なり^四は^五是^六ハ^七又^八流^九世^{一〇}を^{一一}
流^{一二}は^{一三}柴^{一四}舟^{一五}孫^{一六}く^{一七}か^{一八}き^{一九}孫^{二〇}ぬ^{二一}袖^{二二}も^{二三}
見^{二四}る^{二五}紙^{二六}持^{二七}お^{二八}ミ^{二九}な^{三〇}孫^{三一}ぬ^{三二}人^{三三}な^{三四}孫^{三五}と^{三六}
法^{三七}乃^{三八}人^{三九}も^{四〇}き^{四一}ま^{四二}ま^{四三}ハ^{四四}舟^{四五}なる^{四六}
い^{四七}く^{四八}孫^{四九}む^{五〇}ハ^{五一}孫^{五二}ハ^{五三}と^{五四}く^{五五}孫^{五六}
く^{五七}く^{五八}く^{五九}く^{六〇}く^{六一}く^{六二}く^{六三}く^{六四}く^{六五}く^{六六}く^{六七}く^{六八}く^{六九}く^{七〇}
中^{七一}へ^{七二}孫^{七三}ハ^{七四}く^{七五}ハ^{七六}く^{七七}ハ^{七八}く^{七九}ハ^{八〇}く^{八一}ハ^{八二}く^{八三}ハ^{八四}く^{八五}ハ^{八六}く^{八七}ハ^{八八}く^{八九}ハ^{九〇}く^{九一}ハ^{九二}く^{九三}ハ^{九四}く^{九五}ハ^{九六}く^{九七}ハ^{九八}く^{九九}ハ^{一〇〇}く

字

浦山の皆必所少くうん

さん名所少くう所少くう

中ん海一先向ひよあ

大山乃又くうん比叡山ん

さん山あきう比叡山りて

ろく麓ふ山五二一社志々

くう巻冬ハ王子戸は坂本

字

家と疎あく又くしてん

比叡山ハ五城もわう

あうわてんよあふ中乃

う所我山ハ五城の鬼ハ

悪魔を拂乃三々一佛

巻と一ハ傳へきう勢

傍まわまう天台山と号

詞

震旦乃四明於ほくをうたきり
 侍夏大帥極武天皇とほくを
 ひとほふして延暦年中於
 法華勅おほく松と詠ひ
 根本中堂乃山上まて殘りあ
 るくしてん ねく大宮乃法を所
 りし處とやんもあ乃根本於

下堂

年

うらまをてんり さん人養り
 あいほを可く本源きうけ
 るくふるうむかえ乃ほを所
 一殿まて法の人ん あり難や
 一切前を思ひ佛性みまときく
 母ハおホり方さまための
 ありん 依のしを佛前を

廻りるものなきに内務もわらわ

上巻二二二二二

へそいあ〜一佛宗

シテ書シ

炭ゆは舎明乃こは浦をたす〜へ

シテ訂

糞止親お海を〜へ

戒之恵お三学をこそ三塔と

な法を人ハ又一急三千お

機を取〜三千人の宿徳を置

ト

因融乃法も墨あき月お横川も

ろ〜うわやお又糞ハき〜波や

志賀幸波お一松七社乃神奥お

浪幸お末末なる海〜さ〜浪の

見なま持漕まはり鏡よ幸り〜

向ひお備波乃粟流の森ハを〜

なわて記ハとをき〜あその

昔なすくく山標ハあを羨すし
面影も玄山ハ縁りや喜海の
柴少の志さくくまひまら
おーさささくくおもおよおよく
しりささ乃葉はよんやく美し
くわくく露をうくく草
花ぐく日も昔おもあけく

粟江の原おあしれよおあき福
おもやりんくく白又不恥を
々たぐ若く眼鏡をやあお波
楯を流す霧籠よ殘花を見た可
雲水乃葉は玄原のあさくくをよ
と義法くあさふく息くく
備居あちまのいささくくや

一一一
うゝわたりもわたり 其船人

うゝ道事うゝ法 小見え

早 船大旗 され冬あう始りわ換

あひひととてしるるかさ

きのみ乃ぬか人 每人あ

あゝに 漁ふゆも あゝぬ

上り月し 武士おやうと能満乃渡り

やうと乃うゝわたりもわと

見えーい我うーいあーく

は船を法法の船よひきうへて

下 我を又は居よとてたうと

舟へや 舟もやちめを花乃巻

東流へ志多そやー老少も流

お及不同愛の泡新何までた

吹花橙花一口乃榮弓馬の家
 すむ月おわすりふ乃く好兵乃
 七騎とがわて本骨屋ハ江
 詠よちわたまあふ曲字勢回
 集りあひて又三百餘騎よ集ぬ
 其及言我らひくまへ又立
 二騎ようちおやまふハ力あ

あれ松原よ落りて内服めされ
 人とうひりりめ中をい
 心かうとも立流二騎あり流乃
 松原よりて落りくわ曲字
 中やうはもわは額大勢入りて
 を流うけくわぬときも任らん
 とく約の手纏をぬきも本骨殿

法隆寺ありけるいぢがくの歌を
乃の禊もゆはよたのつやの
所存ありける故うとて同く
の舎したまへハ重宝又中やう
こハ口携き法隆うぬきけりふ
本骨殿乃人なふかこ里好りん
事ノ末代能は所存く法白答

あはる一と井をやくゝ美し
とのうひよよしめつれ又
引の舎一あたりのしを及の
本骨殿ハ心かうともた一跡
粟はのりゝおあぬる本松原
こくして落ゆふはむほきの
末流うこけらめきたなうしんえ

うへは比叡乃山風の雲行空も
これそとわあ扇一也通海乃末
まゝ雪お為深田よ馬をうけ
おと一ひきせあゝひうせ
下 申のぬもち月おあ乃一らあ
かゝいこうこいなるよとたし
おお果せんういもひへあお

うへは比叡乃山風の雲行空も
これそとわあ扇一也通海乃末
まゝ雪お為深田よ馬をうけ
おと一ひきせあゝひうせ
下 申のぬもち月おあ乃一らあ
かゝいこうこいなるよとたし
おお果せんういもひへあお

かゝるもなきたすわもあふ
馬よわをちこち乃おとふ
と〜海ハ愛う我もわも主君の
は法をまら吊ひてらひたまふ
実し〜しき物候しひひ
清宮及ハ何とらた〜勢好くる
魚上まハかくろとも〜て我小

そ降ももは宮及ハ清竹を心よ
か〜海ちうわなわ ねる後よ
思〜れも顔乃う〜こ小聲くそ〜
骨木とのう〜こまたまりひぬと
よ〜い海をや〜わ
何をり取す〜と 思ひ定て
魚上まハ かくろ宮及ハ清宮と

神小せりり大言あきまふ殿乃
 法内よと井形四市通事と必衆
 うけて大勢よおほいていまハ本
 一孫苗子形秘術を死
 大勢法業流のけよを法〜め
 成〜法浪乃ま〜くわき〜わ〜もて
 十文字ふ打破〜けとを法〜て

其後白雲形を本よとて古刀法
 くろへ法〜さ〜の〜ま〜れおちて
 法あぬ〜勢よくわ魚〜あり
 きいろ法志と目をねとろのん
 ありき海なわく

